

令和3年7月19日

北谷町長 野国昌春 様

北谷町総合計画審議会
会長 下地芳郎

第六次北谷町総合計画基本構想・前期基本計画について(答申)

令和3年4月26日付け北企3第749号で諮問のあった第六次北谷町総合計画基本構想・前期基本計画(案)について、本審議会において慎重に審議を重ねた結果、適切であるとの結論に達しましたので、答申いたします。

また、町の将来像「一人からはじまる 広がる 大きな輪 みんなで育む北谷町」の実現に向けて、留意すべき事項を下記のとおり申し添えます。

記

1 総括意見

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により国・県・市町村の財源は苦しい状況に陥ることが予想されます。そのような中で、町が取り組む事業について漠然とした事業の執行だけでは町民の理解は得られません。しっかりと結果を数値で示すことが強く求められているということに留意してください。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえて、デジタル化の推進という部分を北谷町のこの10年の計画の中にどう盛り込んでいくのか十分に留意してください。

2 個別意見

【基本目標1 笑顔でふれあい 多文化を認め合う 平和を愛するまち】

- ・基地問題への対応として、米軍人が事件・事故を起こした際に効果的な抗議活動をするためには、語学力が非常に重要であることから、語学力に長けた職員の配置を行うべきである。
- ・次代を担う青年会の再生を図る取組みを進めていただきたい。
- ・来年、世界のウチナーンチュ大会が予定されており、今年から来年にかけて様々な取組が考えられる。

【基本目標2 あなたは北谷の宝です】

- ・商工会との連携による特定検診受診率向上対策について取組みを検討していただきたい。
- ・成果連動型民間委託契約方式について、全国的に導入事例が増えている。このような新しい取組についても検討していただきたい。

- ・今後も高齢化が進行する中であって、生活支援コーディネーターの数が足りなくなることが想定される。増員するための補助金の増額についても検討していただきたい。
- ・福祉の相談業務を進めにあたっては、行政の縦割りを排除し、横の連携体制を構築していただきたい。
- ・シルバー人材センターについて、いくつになっても就業が続けられるような年齢や体力に応じた職業のあり方について検討しながら、高齢者の生きがいの維持、体力低下による引きこもりや認知症予防等に取り組む必要がある。

【基本目標3 まじゅん 未来につなぐ エコ美らタウン】

- ・東部地域に関しては、土地、建物の所有者が異なることが多く建て替えが出来ない。インフラが整っておらず、駐車場もない。県道 24 号線を歩く子どもたちは車道を歩いている。インフラ整備が進まなければ東部地域の人口は減少の一途を辿ることが想定されます。東部地域の開発は北谷町の発展に重要となると思われます。
- ・住宅の取引市場で、宅地がかなり小口化している。昔は 150 m²あったものが、かなり小さくなっている。狭小住宅があまりにも多くなると、人口が密集してしまい、結果として、消防活動などに支障が出てくることが考えられる。適切な地区計画の設定等を行い、敷地面積の最低限度を求めていくことが大事となってくる。
- ・町が保有する公有財産等を活用した新たな収入の確保、公民連携手法を利用した公園のPARK-PFIなどを総合計画に盛り込むことで、オーソライズされて、今後、活用しやすくなるのではないかな。
- ・IoTを活用した駐車場の満空情報が表示されることで、渋滞緩和につながると考えられる。また、車を使わずに歩けるまちづくりをどうするか議論すべきである。
- ・住宅用火災警報器の補助などの取組を検討できないか。予防は消防という言い方もあるので、目を向けるべきである。
- ・来訪者も滞在中は、住民の一人であるという意識で、お互いで助け合うための取組が必要である。地域防災計画の見直しとともに観光危機管理計画について、早期に策定するべきである。

【基本目標4 たのしく ゆたかに たくましく 生きる】

- ・登校拒否をしている子どもたちにデジタル技術を使って、学習をさせるなどの取組も検討していただきたい。
- ・若年者出産や周りに頼れる人がいない家庭などでは虐待リスクが高まることから、切れ目のない相談体制の確保が重要である。
- ・就労困難者やひきこもりの中には発達障害の特性があるためにコミュニケーションがうまく取れず、徐々に社会から孤立する方が多い。
- ・一方で、発達障害だけでなく、発達上の支援を要する子に関しては、子どものころから適切な発達支援を受けることで、より良い成長へ繋がると同時に二次障害を防ぐ効果が期待される。そのためにも、当事者への支援の充実と、家族を含む周りの大人の理解、対応訓練が必要となる。
- ・子どもの貧困問題の要因は親の貧困が原因であり、家庭全体の支援が必要なケースが多い。行政の部署間の縦割りをなくし、上がってきた情報を共有し、複合的な課題解決に向けて、生活～就労ま

で一体的な支援を行う体制づくりが必要である。

- ・貧困家庭では、放課後の居場所がない子もいたため、子どもが安心して楽しく過ごせる場（貧困の子は有料の学童などには行けない現状がある）、家庭に課題のある子の保育園優先入所、課題の複雑化に応じたファミリーサポートセンターの利用助成、養育支援事業へのつなぎなどの連携の充実を図ることも重要である。
- ・子どもの貧困を繰り返さないためには、自己肯定感の醸成や周りの人との温かい触れ合い、モデルになる大人の存在、教育が重要となる。
- ・子どもたちが地域の宝として、安全・安心な環境で、いろいろな経験を通して学び・遊ぶことで自分の強みを発見し、自分の将来に希望を持てる環境をつくっていくことが重要となる。
- ・「進路なき卒業」により社会との接点を失い、ニートや引きこもり状態に陥るケースが考えられるため、進路未決定者の現状把握と対応策について検討を進められたい。
- ・町独自の学力対策として、持続可能な開発目標などの社会的課題や包摂的に物事を考えるプログラミング的思考などを取り入れてみてはどうか。
- ・生涯スポーツの視点とスポーツコンベンションという視点、産業としてのスポーツをどう見ていくのか。大きな流れに対応されたい。

【基本目標5 多様性と共に新しい今を創造するまち】

- ・観光客に関する安全確保体制の整備については、台風、地震、津波等の他、防犯面にも配慮いただきたい。
- ・観光に対する目的をどこに置くのか、地元にはしっかりとお金が落ちるように考えていただきたい。
- ・観光に対する負の効用（オーバーツーリズム）についても考えていただきたい。
- ・新たな特産品の開発について言及していただきたい。北谷町は製造業が少ない。製造業を育成させるためにも重点的な施策が必要である。
- ・製造業の発展は、コミュニケーションに課題のある方も黙々と作業をこなすという面で職業能力を発揮する方がたくさんいる。
- ・特産品を開発するにあたっては、必ず原材料が必要である。その中で、北谷町には農業が無い、そして漁獲量も少ない。その問題をクリアするために農・水産業が一体となった特産品開発が必要である。
- ・北谷町では農業は確かに少ないけれども、北谷町の東部側にどこか活かせる土地があると思う。大きなものでなくても、植物工場で北谷ブランドを作り上げるという取組も考えてみてはどうか。水産業でも養殖など、やれないことはないと考えている。農業、漁業は諦めがちな環境ではあるが、切って捨てるものではない。
- ・沖縄は最低賃金が低いということもあり、県民の所得が、他府県に比べて低い状況にある。このことから、起業する方が他府県に比べてかなり多くなっている。ただし、残念ながら廃業率もかなり高い。商工会等で学びの場が提供されているので、そこに繋げるなど起業家への支援も重要である。

【5つの基本目標を実現するために 協働のまちづくりと行財政運営】

- ・公共サイドもデジタル化に取り組むことによって、先進的な取組をされている企業が北谷町に進出するきっかけにもなり得る。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響によりどこの企業もデジタル化が必須だという話になっている。そのような中、公共がいつまでも申請等紙ベースで提出しなさいではよろしくない。公共サイドもデジタル化の取組を進めていただきたい。
- ・社会問題は多様化しており、行政だけではどうしても解決できない問題が生じることが想定される。この問題について民間のビジネス（ソーシャルビジネス）で解決することも必要である。
- ・北谷町の場合、東側と西側に分断されているような気がする。町民みんなでなにかをやるという祭りに関しても西側と東側が一体でできるような仕掛けが必要。北谷の歴史、文化を観光、祭りに入れることができれば、もっと一体感が生まれるのではないか。
- ・公民館主事の資質向上のため、あるいは講座内容の充実を図る取組みを進めていただきたい。
- ・いろいろなデータをオープンデータとして公開することで、民間の力を上手く使うという観点も重要になってくる。
- ・社会資本の適切な維持管理は、特に大事なことで戦略的に行う必要がある。ただし、今後は、それに加えて、効率的に維持・管理しやすい建物の仕様にしていくことが大事となる。